

R7 意見交換会グループワークまとめ

医療介護連携のために使用したことがあるツール等（会場参加者）

	ツール項目	回答数	内訳（複数回答あり）
1	かごネット	19	医療機関 3・医療機関連携室 9・薬局 2・ケアマネ 2・訪問看護師 2・施設相談員 1
2	いいせんリンク	24	医療機関 6・医療機関連携室 7・薬局 1・ケアマネ 7・訪問看護師 3
3	MCS	8	医療機関連携室 2・薬局 2・ケアマネ 2・訪問看護師 2
4	LineWorks	3	薬局 1・ケアマネ 2
5	LINE	11	医療機関 1・医療機関連携室 2・薬局 2・ケアマネ 5・訪問看護師 1
6	SMS	3	行政 1・薬局 1・ケアマネ 1
7	メール	10	行政 1・保健所 1・医療機関 1・医療機関連携室 2・薬局 1・ケアマネ 3 ・訪問看護師 1
8	FAX	20	行政 1・保健所 1・医療機関 4・医療機関連携室 5・薬局 1・ケアマネ 5 ・訪問看護師 1・施設相談員 2
9	その他	3	医療機関連携室 1・ケアマネ 1・施設相談員 1

①自他問わず、見聞きしたかごネットやバイタルリンクの活用事例やメリット・デメリット、感想を共有しましょう。

〈会場参加〉

1 グループ

- ・かごネットのセキュリティは高いがハードルも高い。バイタルリンクのハードルは中度、LINEに近い。
- ・かごネットはシチュエーションが限られる。
- ・課題は母数の問題、用途が違うのは理解できるがツールが多い。

2 グループ

- ・かごネットのメリットは他院の検査データ・画像が見れる。デメリットは登録していない医療機関は見れない。
- ・いいせんネットのメリットはLINEのようなメール機能で手軽にできる。参加が簡単にできる。カルテ情報は見れない。登録以外は見れないが無料。急ぎは電話を利用する。デメリットは入力の手間。

3 グループ

- ・かごネットはなじみがない、登録人数が少ない、料金が発生する。
- ・バイタルリンクはアカウント登録、家族への説明に医師が動いてくれないと使用開始ができない。小グループ内で利用すると使いやすいのではないか。
- ・正確性、スピード感が有用である。セキュリティが保たれてよい（FAXは番号間違いの不安）。
- ・一度に多数の人が情報を共有できる。

4 グループ

- ・バイタルリンクは最近少ない。患者中心で作るので写真・画像ありすべてわかるけど入力の手間がかかる。提供表のやりとりとかはできる。
- ・かごネットについては、医療に特化して、情報がリアルタイムでわかる。

5 グループ

- ・いいせんネットは退院時の情報が共有できる（動画も送れる）。既読がつくから見たか確認できるメリットがある。デメリットは確認が遅れる。忙しいと見れない。
- ・かごネットは救急で来た患者さんの情報を把握できるメリットがある。画像やデータが専門的だと理解できない、患者さんの登録が少なくてヒットしない、初期費用が高いデメリットがある。

6 グループ

- ・電子カルテを使用しておらず常時活用はできないが外来では確認できている。かごネットの必要性や活用方法について加入促進につなげたいが職員の理解が低い。
- ・バイタルリンクのメリットは画像閲覧できる。訪問の様子（バイタルサイン）が共有できる。皆が使用できるツールにできたら良い。デメリットは入力する職種が限定されるため業務負担も感じる。記録物は解釈で誤解を招く可能性がある。

7 グループ

- ・DXも色々種類があって、各システムごとに使い方が異なるので覚えるが大変。
- ・勉強会、説明会等も実施しているがなかなかDXは普及していない。アナログに頼っている。
- ・FAXも使えないところもある→PDFで渡す。
- ・かごネット→受診時に認証していなくて見れないことがある。
- ・バイタルリンク→画像など送れるのが良い。
- ・口腔ケアラウンドの情報共有に使っている。

8 グループ

- ・かごネットはハードル高い、イメージがつきにくい、個人情報がかわい。特化情報は良い。
- ・バイタルリンクは身近なイメージある。
- ・情報漏洩心配、知り得ないでよい情報まで見られる。

9 グループ

- ・バイタルリンクのデメリットは時差がある、既読がつくのに時間がかかる、本当にみているのかどうかわからない、通知がきているかどうかかわからないなど。メリットはやりとりがしやすい、写真も見ることができて便利、時短につながる。
- ・かごネットのデメリットは入っていきなくなっている、パスワードがわからない、カードがないと見れない。メリットは退院時情報がない場合薬局では便利、病院が閉鎖したときに引継ぎできて便利、点々と病院を受診している方は便利。

〈Web 参加者〉

1 グループ

- ・かごネットのメリットは済生会、市民 HP の電子カルテデータが見れる費用対効果でバイタルリンクではなくかごネットを利用している。FAX での情報共有等より確実。デメリットは他施設等で薬がどういった理由で処方されているかわからない。薬を飲んでいない人が登録。病院は月額利用料高すぎる。チャット機能などうまく活用できていない。
- ・バイタルリンクのメリットは無料で利用できるのがいい。グループを作って情報共有できる。デメリットは利用していない。かごネットに比べて閉鎖的。

2 グループ

- ・メリットは済生会、市民病院の検査値が見れる事で患者の内服状況の把握が出来る。又検査を引き出す事も出来るので助かっている。
- ・デメリットは内服処方がどういった内容で処方されたのか分からない。費用が高いため加入できていない。

②職種または場面に応じて「何ができるか」「どう使えるか」、活用の可能性について考えてみましょう。

〈会場参加者〉

1 グループ

- ・使いこなせていない我々がいる。アナログ（電話・FAX 等）は「まだ」切り離せない。

2 グループ

- ・活用できれば情報共有が対面でなくても有効ではないか。関係者が全員で共有ができる。
- ・入力も大変ではないか→音声入力をする事で業務軽減できるのではないか。音声入力のスキルアップが必要。
- ・変更された薬の理由がわかる。生活歴はない。転倒の原因をフィードバックできる。

3 グループ

- ・画像・動画の使用（言葉で表現しにくいことも伝わりやすい）。
- ・情報のもれがない。共有ができる。

4 グループ

- ・薬局は施設に行く際 7～8 人まとめていくのに介護の情報が欲しい。職員に都度確認して情報収集が大変。

5 グループ

- ・往診の時にタブレットを持って行きその場で共有できる。セキュリティが高いから利用者間で報告書を送ることができるので時間、紙、ガソリン費用の削減できる。自分では分からないことも他の職種の方が気づきその情報をもとに新たなことに気づくことができる。

6 グループ

- ・何ができる→すぐに共有できる。
- ・どう使えるか→他医療機関との連携

7 グループ

- ・FAX文化をやめる。
- ・褥瘡写真，家屋調査にDX使える。
- ・LINEの活用。

8 グループ

- ・活用例として，利用者の状態の写真などをもっていかなくて済むのがいい。
- ・連携は取りやすくなる。
- ・知って使いはじめれば広がるのではないか。

9 グループ

- ・かごネットとマイナンバーと一枚にまとめられれば良い。
- ・しゃべれない場合カードで情報が見れたらよい。
- ・緊急時本人が意識がない場合かごネットカードがあれば便利。

〈Web参加者〉

1 グループ

- ・かごネットはカンファレンスなどで活用できると，実際集まるより時間の都合など合わせやすそう。災害時などに役立てる事ができそう。参加するHPが増えれば情報を共有する事が今より容易にできそう。
- ・バイタルリンクは個人のバイタルなどが情報共有でき在宅生活などの様子がわかる。

2 グループ

- ・薬のない方が登録されても仕方がない。チャットを活用していく，情報共有が出来ればと思っている。災害の時の支援に役立てる事が出来る。ケアマネはバイタルリンクよりかごネットが活用しやすい。バイタルリンクは直接医師とのコンタクトをとるのが難しい。